

尚全日は貝採取を行った。

投入前後における養殖場所の水温及び比重は次の通りである。

月日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日
水温 ^{°C}	27.0	28.0	28.2	27.9	27.6	25.9	27.0	26.9		25.9	25.4	26.3
比重 ^{g/cm³}	23.810	24.202	23.751	24.110	23.824	23.513	22.850	23.330		16.420	15.040	21.988

月日	9月1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日
水温 ^{°C}	26.0	25.4	26.8		27.3	26.8	27.4
比重 ^{g/cm³}	23.080	21.873	22.794		22.737	22.794	24.505

1、2月下旬取揚げの予定

海人草増殖効果判定調査

鹿児島大学水産学部田中教授の御援助を仰ぎ垂水町荒崎において海人草の増殖効果判定調査を行った。

調査概要

当地先の海人草の生産量は28年(乾12×) 20× 29年(乾30×) 300×ととなっている。

作業前の予備調査及び現場調査

試験地荒崎の底質は砂泥地に礫及び2~3×~20~30×の岩石が散在し海人草は潮時水深0.5尋~3尋位の丸の岩石上に生育している。

藻体はどの伸長良好で3寸内外を示しているが冷んどヒメモサヅキが附着している。

胞子の成熟程度は8月12日の調査で一部放出が認められたが施設適期か否かは判断できなかった。その他の生物としてはホンダワラ、テングサ、及び満潮線間にはフノリが生育が見られる。

事業実施状況

8月9日より10日までの3日間澳協自体で7~10×の容岩石を1日1,500ヶ計4,500ヶを水深2.5尋に散布した(紫処理)

8月12日は4~5×~10×の容岩石1,500ヶに種子蒔付けし水深2.5尋に散布した。水温~28.1°C

種子蒔付けの方法は桶内の海水中に約1時間陰干した原藻約13×を30分間浸漬し胞子を出させ直ちに石に蒔き付けた。尚桶内の原藻は20ヶの網袋に入れて種子蒔付けた石に掛りつけて胞子着生の増加を計った。

効果調査

海人草の生育状況及び寄敵生物の着生状況投入した石の集積、埋没、転底等について8月中旬頃調査する予定である。

沿岸資源委託調査

西海区水産研究所より委託されたので海上調査を実施する。

- 1) 調査地 志布志
- 2) 調査対象魚 八田綱
- 3) 調査魚種 マイワシ、カタクナ、ウルメ、アジ類、ホシサバ、ゴマサバ、ブリ、スルメイカ、サンマ等

魚体調査

- 1) 調査日の抽出 — 各月を10日毎に区切り、各期間内で原則として最初の有魚日を抽出
- 2) 調査船の抽出 — 1調査日に2隻を抽出
- 3) 箱の抽出 — 1船より1箱又は2箱を抽出
- 4) 魚体の抽出及測定 — 上記抽出した箱からマイワシ100尾、その他の魚種50尾を抜き体長を測定し組成を求める。
尚上記体長を測定したマイワシ100尾その他の魚種50尾より25尾をランダムに抽出し精密測定を実施し水研え報告
- 5) 附帯調査 調査港における入港船の獲獲量、魚種別組成等の調査をじ水研え報告

いわし資源委託調査

西海区水産研究所の委託により海上調査を実施する。

- 1) 調査海区 乙海区
- 2) 調査期日 毎月下旬とばつているが当所は捕鯊船の運航上特に考慮して原き、6月、9月、12月、3月の年4回調査することばつている。
- 3) 産卵調査 各定条(18条)で①ネット(D径60cm)の垂直採集(50m→0m)及び表層5分間水平曳(12m/20)をし又0、25、50、100mの水温を測る。
尚ネットで採集し判定する卵、稚仔はマイワシ、ウルメ、カタクナの卵稚仔とし、その結果を水研え研究
- 4) 魚群調査 定められた定条を魚群探知機により調査する。
記録紙に出た記録は魚群番号、魚群間隔、魚群長、魚群高、魚群深度を記載し各海区毎に魚群数を計算し水研え報告

削り節製造試験

近年月日 昭和30年4月21日～9月27日

目 立 節 19貫

産 節 27貫